

# 伝え合う力を高めるための授業の工夫

## ～第2学年 国語科「みんなできめよう」の実践を通して～

加茂市立加茂西小学校  
教諭 黒田 幸子

### 1 はじめに

伝え合う力を高めるために大切にしていることは、「意欲・表現力・思考力」と自分の考えを抵抗なく話せる学級の雰囲気である。

#### (1) 意欲

目的意識・相手意識をもって、子どもが本気で「話したい、聞きたい」と思う課題設定  
認められる喜び・自信を味わえる活動や振り返り

#### (2) 表現力

意欲を支えるための話し方・聞き方の育成  
他教科や学校生活全般での積み重ね

#### (3) 思考力

意思決定ができるための自己内対話や友達との意見交流  
子どもの思考に沿った板書

学習の中で、この3点を高めるために実践を重ねてきた。

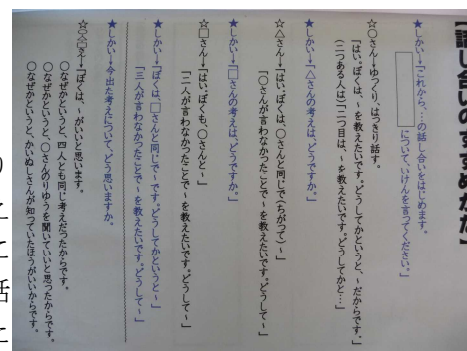
### 2 実践の概要 「みんなできめよう」実践から

#### (1) テーマ設定

話し合いに必要な事柄を考えたり、互いの話を集中して聞き話題に沿って話し合うねらいを達成するためには、全員が必要感をもって話し合いに参加できるテーマ設定をすることが大切である。そこで、1回目は学級活動と関連させた「お楽しみ会で遊びたいこと」、2回目は生活科と関連させて、学級で飼っていた猫の「新しい飼い主さんに教えたこと」の2つのテーマを設定にした。特に2回目の話し合いでは、今まで猫をかわいがってきた分、一人一人が思いをもって発言し受け止め合う話し合いができると考えた。

#### (2) 話し合いマニュアルの活用

国語科で、初めてグループの話し合い方を学ぶ学習である。話し合う経験の少ない子どもたちが自由に話をする状況になれば、思いを一方向的に押しつけ合ったり思うように伝えられなかったりすることが予想される。そこで、話したい、聞きたい思いを支えるために「話し合いマニュアル」を作成した。このマニュアルには、司会の進め方と、一人一人の話し方を記した。一人一人に話す場を与え、かかわりながら話し合いを行うことを経験させるために、友達のと比較しながら全員が発表する場と、発表された考えについて話し合う場をもつような司会の進め方にした。



作成した話し合いマニュアル

#### (3) 授業の実践

「新しい飼い主さんに教えたこと」について、3つの観点（体の特徴、性格や好きなこと、世話の

仕方や気をつけること)に絞って自分の考えをワークシートに書き、グループの話し合いに臨んだ。発表する場では、初めに話した人に対し、「〇〇さんと同じで～を教えたいです。どうしてかという～」「〇〇さんが言わなかったことで～を教えたいです。どうしてかという～」という話し方で順番に考えを話すことができた。話し合う場では、猫の今までの行動や出来事を振り返ったり、友達の考えに賛同したりして話し合いを進め、教えなければいけないことを決定することができた。司会が進めることによって、強引に決めようとしたり意見を言わなかったりする子どもの姿は見られなかった。

体の特徴を話し合うグループでは、たくさんの教えたいことがあり、取捨選択できないでいた。そこで、全体交流の場で友達に選んでもらおうということになった。全体交流では、グループで決定したことを理由も付けて短冊に書き、全員で確認し合った。

#### 〈全体交流〉

C1：話し合ったら教えたいことがいっぱいになりました。飼い主さんはたくさん聞くのが大変だと思うから、どれを抜いたらいいか考えてください。

C2：私は、「オス」というのはいらんと思います。すぐに分かるからです。  
(「いらんね」のつぶやき多数)

C1：でも、C2さんは、にゃんを初めて見たとき、「女の子かな?」って言ったから知らなかったってことでしょ。飼い主さんにもすぐに教えたいから、必要だと思います。

C3：私も、なくさない方がいいと思います。オスとメスを間違えると悪いから。

C4：見分けられるところがあるから、いらんと思います。

C2：え～。なくしたくない。

C5：じゃあ、模様は?見れば分かるでしょ。  
(「分かる」のつぶやき数人)

C6：私は、必要だと思います。ハートの模様は、私たちも後で気づいたから早く知ってほしいです。

C2：私も、ハートの模様はにゃんのかわいいところだから、なくしたくないです。  
(「え～、いらん」「いる」の声が分かれる)

T：早く知ってほしいから必要というのと、見れば分かるからいらんという意見がありました。どちらも譲れないね。じゃあ、この2つは置いておいて、他の考えでなくしてもいいものはないですか。

C7：抱っこの仕方は?これ、体の特徴?

C6：あっ違う。世話の仕方じゃない?

T：どう思いますか。

C7：じゃあ、世話の仕方グループに移動したら?(「いいねえ」「賛成」の声多数)

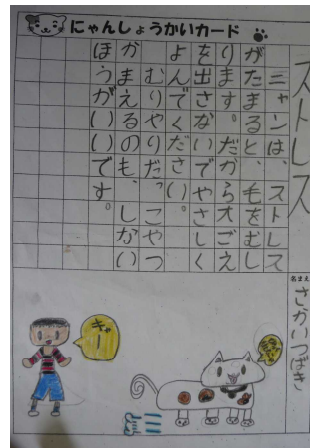
T：体の特徴グループさん、それでいいですか。

グループ鎖：はい。



それぞれ強い思い入れがあったため必要かどうかの価値観が違い、意見が対立した。結果的には話し合った結論で決定したのではなく、体の特徴ではないことを見つけ別の観点に移動することになったが、それまでのプロセスの中で、相手を説得するために多様な面から考えることができた。

猫への愛情が深い分、教えたいことがたくさん決まった。そこで、飼い主さんのために文章に残した方がいいということになり、「にゃん図鑑」を作ることになった。



### 3 考察

#### (1) 意欲面から

話し合うテーマを、学期の最後に全員で楽しむお楽しみ会の内容、今までかわいがって育ててきた猫に最後にできる活動と、どちらも子どもたちにとって大きく心揺さぶられる設定にしたことで、本気になって考え、話し合いを進めることができた。

担任は、子どもたちにとってどのようなテーマが話し合いに必要なものか、意図的にコーディネートしておく必要がある。

#### (2) 表現力から

これまで生活科や学級活動での話し合いは、友達の発言を遮って話そうとしたり異なる考えに批判してしまったりすることがあり、教師が介入しなければ成立しなかった。しかし、話し合いマニュアルをもとにすることで、小グループでも根拠をはっきりさせた考えの話し方、ふさわしい質問の聞き方、意見の言い方ができるようになった。それにより、お互いの考えを認め合いながら決めることができた。

表現力を高めるために、どのような話し合い方をねらいとするのかを明確にしたマニュアルを作成し、それを用いて話し合わせることは有効であった。

#### (3) 思考力から

上記の全体交流で話し合った場面では、「教えたことが多過ぎるから、何を省けばよいだろうか」という考える視点があった。更に、考えが対立したことで「必要か否かもう一度考えよう」という視点も加わった。それらを解決するために、過去の言動や出来事を根拠にして説得したり友達の考えを聞いて思いを巡らし意見したりする子どもの姿が見られた。

グループの考えや悩みを全員で共有することにより、「にゃん図鑑を作成する」という活動の広がりにも発展した。

思考力を高めるためには、多様な考え等子どもにとって刺激になるスパイスを加えることでより深まるのだと考える。

この授業実践後も、学習だけでなく学校教育全般における話し合い活動時には、話し合いマニュアルを活用するようにしている。その中で、子どもたちは、自分の考えをはっきりと話すことができる自信、友達に聞いてもらったり認めてもらったりする喜び、話したことが学級の役に立つ満足感を得ることができている。話すことや聞くことが好きになった子どもが多くなったことで、より心が通う温かい学級の雰囲気がつくられてきたと感じている。